

京都・鳥羽離宮跡



(京都東南部)

- 1 所在地 京都市伏見区竹田内烟町
- 2 調査期間 一九八七年（昭62）七月～九月
- 3 発掘機関 京都都市埋蔵文化財研究所
- 4 調査担当者 磯部 勝・鈴木久男・前田義明
- 5 遺跡の種類 離宮跡
- 6 遺跡の年代 平安時代後期
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

調査地は東殿の北東部にあたる。調査の結果、溝・井戸・土壙などを検出した。木簡が出土したのは、調査区の西端で検出した南北

- 方向の溝からである。溝は素掘りで、幅六m、深さ〇・六mを測り、新旧二時期ある。木簡は新しい時期の溝内から出土した。溝からは、土器や木製品が多量に出土した。土器はほとんどが土師器の皿で、大半が原形を保っていた。木簡およ
- (1) 「咄咲咲王日日王」
王日日
王日日
(2) 「咄咲咲王鬼三日日王」
王鬼三
王鬼三
(3) 「出天罣王鬼三日日王」
出天罣
王鬼三
(4) 「六月」
六月
(5) 「〈解解解解解〉」
（穿孔）
(6) 「〈脱脱脱脱脱〉」
（穿孔）
(7) 「〈等等等等等〉」
（穿孔）
(8) 「〈媼媼媼媼媼〉」
（穿孔）
- (206)×(17)×4
306×14×1
299×12×1
302×15×2
304×14×2

- び木製品としては、呪符・柿経・塔婆・題籤軸・漆器・折敷・下駄
・木球・墨書板・陽物形などがある。

8 木簡の釈文・内容

(9)	「▽樂樂樂樂樂樂。」 (穿孔)	300×13×2	(20)	×千一百五	(62)×16×1
(10)	「▽沙沙沙沙沙」	294×13×0.5	(21)	・「▽南無阿彌陀仏 藤原氏女」	
(11)	「▽慎慎慎慎慎」	(149)×13×1	(22)	・「▽南無觀世音菩薩」	705×63×3
(12)	「▽若有衆生多於婬欲常念恭敬觀音菩薩 一 十」	381×20×2	(23)	「▽大日如來」	195×26×3
(13)	「▽度生死善男子是名是經第三功德不思議 一 百八十一」 (423)×18×1		(24)	「運上目六」	(150)×14×3
(14)	「▽眼目因由是法自然成就五分法身戒定慧 三 百七十八」 356×16×1		(1)～(4)	は呪符で頭部を山形に削っているものもある。(1)・(2)は釘穴がある。(5)～(20)は柿経で、頭部は五輪塔状をしめしている。(13)～(16)・(19)は頭部を黒く塗っている。(5)～(9)は解・脱・等・娛・樂の文字を一枚に各五文字ずつ墨書きし、その五枚を木釘で打ちつけて一つにまとめている。(10)・(11)も同じく五文字ずつ書かれているが釘で止めた痕跡はない。「解・脱・等・娛・樂」は妙法蓮華經卷二譬喻品第三に、「沙・慎」も妙法蓮華經卷四化城喻品第七にみえる。	
(15)	・▽王此經亦復如是諸經中王宿 〔王華此經能か〕		(2)・(21)・(22)	は塔婆である。(23)は題籤軸である。なお、呪符・柿経については、木下密運氏より御教示を得た。	
(16)	・▽救一切衆生者此經能令一切 〔衆生離諸苦か〕 (162)×20×4				
(17)	・▽南無普賢菩薩				
(18)	・▽南無大日如來	512×25×3			
(19)	「▽南無大日如來」	264×16×1			
	「▽南無□」	223×12×2			
	「▽南無大日如來」	(140)×17×1			

9 関係文献

京都市文化観光局・財京都市埋蔵文化財研究所『鳥羽離宮跡発掘調査概報 昭和六二年度』(一九八八年)
(鈴木久男・前田義明)